



これからの総社を左右する **2**つの会

整備方針の答申と 策定完了の報告

高梁川新架橋について
今後の整備方針を審議する「総社市高梁川新架橋整備方針審議会」で8月

20日、答申がまとまり、同日、会長の山田孝延岡山県立大学教授から市長に答申が手渡されました。



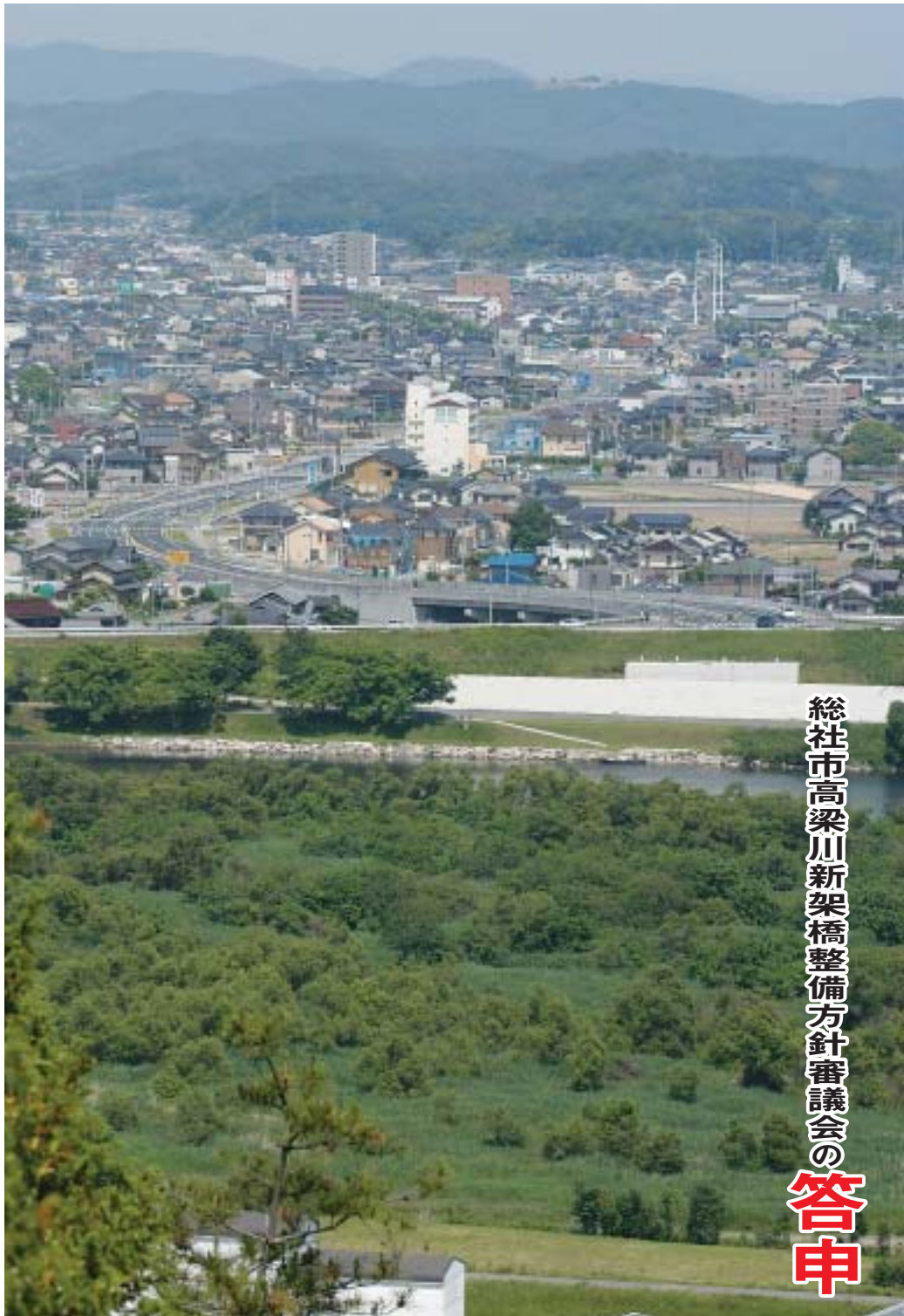
総社市高梁川新架橋整備方針審議会の山田孝延会長（岡山県立大学教授）が、市長に新架橋の整備方針を答申



答申内容を決定した第5回総社市高梁川新架橋整備方針審議会の様子

新架橋の建設は継続して推進を

総社市高梁川新架橋整備方針審議会の答申



伊与部山から高梁川左岸に完成している新架橋の橋台（白い部分）と市街地を望む

答申内容は、「市の財政に配慮することや、事業費の縮減を検討しながら、総社市の事業として継続し、推進を図りたい」というものです。山田会長は、「橋が絶対にならないという意見はなかった。橋自体がもたらす効果や利便性、市全体の発展に必要なこと、市の財政などを総合的に勘案して、慎重にまとめた」と。市長は、「ずっしりと重い答申だ。議会と相談し、9月議会の会期中には決断したい」と話しました。

今回の答申は、市が今年4月に新架橋の整備方針を諮問したことを受けてのもの。審議会は、この日を含め5回開催され、市の財政的なことや橋の経済効果などについて協議を行ってきました。

問い合わせ 土木課 土木係 (☎028291)

人事考課制度の策定が完了し、策定委員会の竹田正彦委員長（副市長。写真左端）と妹尾嘉博副委員長（協同組合ウイングパレイ総務部長。写真右端）が、市長に報告



「能力考課」と「業績考課」で構成

人事考課 10月から試行

人材育成を図り、組織目標の実現や市民サービスの向上を目的に策定作業を進めていた人事考課制度が完成し、策定委員会の竹田正彦委員長（副市長）と妹尾嘉博副委員長（協同組合ウイングパレイ総務部長）らが8月22日、市長に報告しました。

この人事考課は、仕事への姿勢や態度、行動を

考課する「能力考課」と、あらかじめ設定した目標に対する結果や過程を考課する「業績考課」の2つで構成。これを基に、10月から本庁の課長補佐級以上の職員を対象に試行を始めます。試行しながら課題や問題点を修正し、平成22年4月に課長補佐級以上の職員を対象に本格実施の予定です。

妹尾副委員長は、「民間

企業の行動原理などが取り入れられている人事考課で、市民の皆さんも共感できる内容になっている。運用にあたっては、自身のメンテナン（修正や改訂）をしながら、やっていってほしい」と話してくれました。

人事考課制度策定委員会は、市内外の民間企業の人事担当者6人と岡山県立大学教授、市職員ら



人事考課制度策定委員会の様子（8月22日）

計20人で構成。策定委員会は今年4月以降、計5回開かれ、考課項目や内容、考課結果の反映の仕方などについて協議してきました。

問い合わせ 総務課 人事係 (☎028220)